

第74回秋季東北地区高等学校野球大会 感染予防対策ガイドライン

令和3年10月1日
東北地区高等学校野球連盟

1. 感染者への対応について

大会前、大会中に関係者から感染者が発生した場合は、日本高野連が策定した対応表に沿って、次の通りとする。

	感染者が発生した場合の対応	濃厚接触者（家族や職場などで感染者が出た）となった場合の対応
大会役員 審判委員	感染者以外の大会役員、審判委員が感染者とどのような接触歴があったかを確認する。保健所から濃厚接触者の指定を受けた場合は保健所の指示に従う。その間は別の大会役員、審判委員が運営にあたる。	当該者は保健所の指示に従い行動する。その後、保健所の指示に従い検査を実施し陰性が確認され、体調不良や高熱などの症状が出なかった場合は復帰可（経過観察期間など十分に確認する）。
指導者 部員	当該校は保健所から陽性者以外の濃厚接触者の特定や今後の行動に関する指示を行う。当該校は感染者、濃厚接触者以外の行動を参考にチーム内の体調不良者がいないかを確認した上で大会参加を判断する。当該校の意向を踏まえ、運営委員会で決定する。	当該者は保健所の指示に従い行動する。当該校はそれ以外の指導者、部員で試合参加を検討する。当該者は保健所の指示に従い検査を実施し、その後体調不良や高熱などの症状が出なかった場合は学校長の許可を得て試合参加可。

2. 来場者の健康管理

- ① 検温と健康観察を継続して行うこと。また2週間前からの行動歴（いつ、どこに行き、誰と会ったか）を記録しておく。
- ② 大会参加について、保護者の同意を得てから「選手資格証明書」を作成し、同意の得られない生徒は大会には参加・引率しない。
- ③ 大会2週間前より、高熱が発生した選手がいた場合は、練習に参加させず医療機関での受診を勧める等の措置をとる。
- ④ 厚生労働省が開発した新型コロナウイルス接触確認アプリ「COCOA」の登録を推奨する。
- ⑤ 来場者に氏名・連絡先の記入をお願いし、体温検査実施の協力をいただく。検温の結果、37.5℃以上の発熱がある方は入場をお断りする。

3. 抽選会

- ① 組み合わせ抽選会は10月14日（木）にリモート抽選によって実施する。各県代表3校は、所属県連盟の指定された場所に集合し、主管県である青森県高野連の進行で抽選会を進める。
- ② コロナ感染に伴う大会参加辞退届が10月13日（水）までに提出された場合は、3位決定戦に敗れた第4位校を出場校として充てることができる。その場合の各県の代表順位は順次繰り上

がる形をとる。ただし、抽選会以降に大会参加辞退届が提出された場合は対戦校の「不戦勝」として大会を進行する。

- ③ 2試合日は10時と12時45分、3試合日は9時と11時45分と14時30分とし、球場に多くの部員が密集しないように配慮する。開会式は行わない。閉会式は簡略化して行う。
- ④ 前の試合が早く試合終了しても、2試合目の試合開始を早めず45分以上の間隔をとって行う。2・3試合目のベンチ入りはベンチの消毒完了後とする。また試合前の立ち会いの時間は、試合開始予定時刻の1時間前とする。
- ⑤ 大会期間中の練習試合・選手変更は大会規定により認めない。選手変更は大会前日の10月19日（火）正午までに、宮城県高野連（仙台工業高校）にFAX送信すること。選手変更届の原本は試合当日の試合会場で必ず提出するものとする。ただし、コロナ感染に伴う選手変更に関り、試合の前日まで選手変更を認める。その際も選手変更届を提出するものとする。感染が疑われた選手を、再登録する場合にも同様の方法で行うものとするが、その際は最初に登録した背番号にのみ再登録することができる。

4. 選手の移動・宿泊・試合観戦等

- ① 送迎バスを利用する場合は、除菌や換気を行い、座席間隔を空けて着席するなど感染防止対策を講じる。公共交通機関を利用する場合は、混み合う時間帯をなるべく避けるように注意する。
- ② 今大会は宿泊せずに日帰りで大会に参加することを許容する。しかし、宿泊する場合は大会期間中全て宿泊することとし、予備日に宿泊しないようなことは配宿の関係上認めない。
- ③ 移動中や試合会場で食事をする場合は、人と人との間隔（できるだけ2m最低1m）を空け、対面になることを避けるように努める。
- ④ 昼食をとるためにスタンド等を利用しても構わないが、試合観戦やビデオ撮影を目的に球場内に入ることは、感染予防の観点から禁止する。

5. 試合

- ① チーム関係者は起床後検温、体調チェックを行い、その結果を責任教師は検温確認表（様式A）に記載した上、メンバー表交換時に大会役員に提出する。起床後あるいは球場入場時に37.5℃以上の発熱や体調不良（倦怠感、呼吸困難など）が発生した場合は、球場への来場、入場することを禁止し、速やかに医療機関を受診する。その場合、責任教師は速やかに大会本部まで連絡する。
- ② チーム毎にマスク着用を励行し、手指消毒を行う等の感染予防に努める。
- ③ 道具についても試合前後の除菌消毒を徹底する。
- ④ 飲料水やタオル等は個人専用とし、共用で使用するカップ等は使用しない。
- ⑤ ウォーミングアップ時、選手のマスク着用は義務づけない。ただ、球場外でウォーミングアップをする場合、観客近くで行うこともあるため、マスク着用をすることが望ましい。
- ⑥ 試合中、ダッグアウト内の責任教師、監督、選手、記録員、ボールボーイは熱中症対策を十分に講じてマスクを着用すること。グラウンドで試合に出場している選手はマスクの着用は義務づけられない（ベースコーチを含む）。
- ⑦ 円陣を組んでのミーティングや試合前後の挨拶を禁止する。タイムをかけて話し合う場面では、クラブで口を覆ったり、対面で話すことがないよう工夫する。また、ハイタッチ等の接触を伴う

行為は自粛する。

- ⑧ 試合後の校歌斉唱は、適度な間隔を保った上で行う。
- ⑨ 試合前後の挨拶は、発声を自粛し一礼のみとする。
- ⑩ シートロック後、5回終了時、試合後のグラウンド整備は当該校で行う。
- ⑪ 試合後は、ベンチ内の除菌作業を責任教師同席のもと当該校で行う。
- ⑫ ボールボーイ係3名、ファウルボール係3名については試合校から出し、B S O・アナウンスについては宮城県高野連で担当する。
- ⑬ 部員数が少ない学校については、3年生部員の補助員（ボールボーイ等）を認める。
- ⑭ 審判が4人制でない場合もある。

6. 応援・観戦

- ① 仙台市民球場（3,000人）、石巻市民球場（内野700人、外野2300人）の入場制限を設けて、全試合有観客試合とする。入場者からの（1）個人情報（氏名・住所・電話番号）の提供、または（2）新型コロナウイルス接触確認アプリ「COCOA」の登録、を確認し、検温・手指消毒を行った上で、入場料（大人700円、シニア300円）をいただいて入場を許可する。提供された個人情報は感染が確認された場合の追跡調査のみに使用する。ただし、今後の感染状況によっては無観客試合となることもあり得る。
- ② 次に該当する方の球場への入場を禁止する。

- (1) 球場入場時、検温の結果37.5℃以上の発熱が認められた方。
- (2) マスク非着用の方。
- (3) 過去1週間以内に ①強い倦怠感②喉、咽頭痛、息苦しさ③味覚・嗅覚以上などの異変を感じた方。
- (4) P C R検査で陽性歴があり、次の①～④に該当する方。
 - ① 有症状者では、発症日から10日未満でかつ症状軽快後72時間以内。
 - ② 症状軽快後24時間経過から24時間以上の間隔を空け2回のP C R検査で陰性を確認できていない。
 - ③ 無症状病原体保有者では、陰性確認から10日未満。
 - ④ 検体採取日から6日間経過後、24時間以上の間隔をあけ2回のP C R検査で陰性を確認できていない。
- (5) 濃厚接触者として自宅待機中の方。
- (6) 家族が濃厚接触者として自宅療養中の方。
- (7) 家族に上記(3)の体調不良者がある方。
- (8) 海外から帰国（日本に入国）して14日以内の方。

- ③ 入場者は、スタンドで両手が届かない間隔を空けて試合を観戦する。声を出しての応援は自粛し、拍手やメガホンをたたく行為のみとする。ハイタッチや座席の上に立ったり、一カ所に集まる行為、全員がタオルを回す行為がないように事前告知を行う。
- ④ チームとして太鼓1個の持ち込みを許容する。応援リーダー、チアリーダーについても入場は可とするが、ソーシャルディスタンスをとることや大声を発しないなど、上記③に準じた応援の体制をとる。

- ⑤ ブラスバンドによる応援は日本高野連が定める「ブラスバンド入場に関するガイドライン」を遵守することを条件に認める。または録音された音源を、自主電源を用いて指定された場所（外野の芝生席）から流すことを認める。ただし録音された音源は音楽のみ（歌詞を除いたメロディーのみ）とする。
- ⑥ 学校観戦は学校長の責任の下で認めるが、上限を 300 人とする。学校生徒は指定された場所においてのみ観戦ができるものとする。学校観戦を希望する場合は、引率責任者を指定し、最低でも 2 日前までに責任教師を通じて大会本部に連絡を入れることとする。引率責任者は当日の学校応援者名簿（様式 C）を入場前に大会本部に提出する。

7. 報道への対応

- ① 報道各社には、1 社 1 球場あたりの取材者人数を限定し、報道受付で入場申請書を記入した後は、原則スタンドで取材を行う。大会本部には報道席を設けない。
- ② 試合前の選手や監督への取材は禁止する。また、試合後の取材については、各チーム監督 1 名と選手 2 名以内の指名を大会本部で取りまとめ、監督 5 分選手 5 分で行う。
- ③ 大会前の参加校への取材については原則禁止する。取材の必要がある場合は、責任教師を通じて各学校長の許可を得たのち実施する。

8. 大会運営

- ① 全ての試合においてボールと投手ロジンは大会本部で準備する。※ネクストバッターのロジンは各校で準備すること。なお、コロナ感染対策として、できるだけ個人使用が望ましい。
- ② 運営委員も事前に検温を済ませ、手指消毒を徹底する。大会本部は密集を避ける工夫を施し、パソコンやアナウンスマイク等は使用者が代わる度に消毒する。
- ③ 運営委員は感染予防のため、マスクや手袋を着用して大会運営に従事する。
- ④ 全ての試合において「一球速報」を導入する。運営委員不足の場合は、インニング速報を行う。
- ⑤ 選手の健康管理のため、球数制限の運用を行う。試合前に投球実績表を責任教師に配付し、球数を確認し、1 週間内に 500 球を越えないように選手の健康管理に努める。準決勝以降は登板沙投手全員を対象に関節機能検査を実施する。
- ⑥ 大会中、本部に看護師を常駐させる。来場者の中に発熱や体調不良など感染が疑われる人が出た場合は検温を行い、疑いがあるようであれば保健所の電話相談窓口に連絡して指示を受ける。
- ⑦ 審判員も事前に検温を済ませ、手指消毒を徹底する。審判員への給水は審判団に依頼する。感染予防のため、タオル提供は行わない。
- ⑧ 少年野球の始球式等は実施しない。

9. 感染者が発生した場合の対応

- ① 大会前、大会中に大会関係者、チーム関係者から感染者や濃厚接触者が発生した場合は、1 の「大会前、大会中に関係者から感染者が発生した場の対応について」を参考に対応する。
- ② 東北大会を終えた後、14 日間以内に新型コロナウイルスに感染した場合、あるいは感染が疑われた場合は、速やかに青森県高野連に書面にて報告する。

- ③ 球場で観戦後、14日以内に一般入場者や学校応援者が感染者となった場合、大会中であれば大会本部、大会後であれば青森県高野連と宮城県高野連まで連絡してもらう。
- ④ ③となった場合、試合会場となる球場とも情報共有し、保健所の指示に従いホームページで感染者発生の情報発信や観戦した観客への連絡等取るべき措置をとる。

10. 参加校の大会参加可否の判断基準

- ① 大会中、参加校から感染者ならびに感染の疑われる者（濃厚接触者）が判明した場合、参加校責任教師から情報収集（感染者数、行動歴、保健所の指示内容）に努める。
- ② 当該校は感染者、感染が疑われる者の人数や行動歴、保健所の指示を踏まえ、当該校校長が参加の可否を判断する。
- ③ 大会への参加を辞退する場合は、「大会参加辞退」が学校長判断のもと確定しだい、責任教師が青森県高野連理事長に電話連絡を行う。その後、「大会参加辞退届」を提出すること（提出先は青森県高野連理事長に相談）。
 - ・ 文書作成期日は電話連絡を行った日時とする。
 - ・ 学校長の押印を必要とする。
 - ・ 辞退理由は「大会参加規程によるもの」とする（詳細は必要なし）。
- ④ 主催者は参加校校長の判断を尊重し対応する。しかし、当該校の感染状況（部内での集団感染や集団感染が予見されるなど）によっては出場を差し止めることもある。